

合同

No. 471

「チーム・エクレシア」

江戸川台教会牧師

田名邊 義之



「そこで、十二人は弟子をすべて呼び集めて言った。『わたしたちが、神の言葉をないがしろにして、食事の世話をするのは好ましくない。それで、兄弟たち、あなたがたの中から、“霊”と知恵に満ちた評判の良い人を七人選びなさい。彼らにその仕事を任せよう。わたしたちは、祈りと御言葉の奉仕に専念することにします。』・・・こうして、神の言葉はますます広まり、弟子の数はエルサレムで非常に増えていき、祭司も大勢この信仰に入った」（使徒言行録6章2節～7節）。

5月に牧会をテーマにしたセミナーに参加しました。毎回セミナーを企画する世話人でもありますが、多くの牧師が抱えている問題は、多岐に渡っています。伝道や説教についてセミナーを企画してきましたが、今回は牧会についてでした。1教会1牧師の伝統の中で、リーダーシップという名の下で得手不得手関係なく、伝道、説教、カウンセリング、教会形成等すべてを求められている牧師は、悩み、苦しみ、祈っています。常に誰か（前任者や、創設者等）と比較され、結果を求められる無言のプレッシャーに苦悩しながら、目の前に起こる多くの問題（信仰継承、教勢減少、経済的問題、教会維持等）に孤独で霊的な戦いをしています。120名の牧師が、今抱えている問題解決の糸口を求めて集まっていました。

ある分科会の講師が、それぞれの抱えている問題を聞いて、すべての問題の解決は聖書にあると言われました。一人の牧師ができることは限られています。人間は有限です。けれどもこの世界を創造されたお方、主なる神は無限であり、全知全能なるお方です。わたしたちのすべてをご存知なお方は、すべての問題を解決することができます。すべての問題

ですから日本の宣教問題、少子高齢化問題、経済問題、信仰継承問題など、ありとあらゆる問題です。わたしたちが真剣に心を合わせて祈るなら、必要な知恵、必要な助け手を与えてくださいます。

神が、イスラエルの民をエジプトから救い出すと言われたとき、モーセは自分には無理だと答えますが、あなたにはアロンがいる、そして神が共にいると言われました。エジプトを脱出した後で、民の問題を一人で解決しようと奮闘していたモーセに、神はしゅうとであるエトロを遣わして、すべて一人で抱えるのは良くないと言って「民全員の中から、神を畏れる有能な人で、不正な利得を憎み、信頼に値する人物を選び・・・民の上に立てなさい」と助言しました（出エジプト記18章17節～21節）。

主イエスもまた、神の子キリストであるのに、一人ではなく、弟子を選び共に宣教、牧会を進めました。使徒言行録や、多くの手紙の中でもパウロやバルナバ、シラスやテモテ、アポロやアキラ、プリスキラ等を各教会に遣わして、複数やチームで、宣教や牧会を担わせたことが記されています。そうです。神のみ心は「人が独りでいるのは良くない」なのです。主は、宣教者には必ず助け手を送っておられるのです。宣教も牧会も、牧師だけ、または牧師の賜物だけで担うのではなく、キリストの体全体で担うのです。

2030年問題というのを聞いたことがありますか。それは、国内人口の3人に一人が65歳以上になることです。今の牧師の3分の2が75歳以上となるので、今ある教会の半数が無牧、合併、解散になると言います。合同教会にも突きつけられている問題ですが、わたしはそんなに深刻になりません。教会の存続は、主のみ心だと考えているからです。人口の約99%がノンクリスチャンの国です。すべての問題を牧師だけが考えるのではなく、チーム・エクレシア、教会全体で考え、心を合わせて祈るならペンテコステのときのようにクリスチャンは増え、加えられると信じているからです。主のみ心は教会の消滅、クリスチャンの減少ではなく、福音宣教、クリスチャンが地に満ちることだからです。